第２学年　道徳学習指導案

１組　計２５人（男子１１人，女子１４人）

指導者　　平　田　秀　司

１　主　題　名　　**友だちっていいな**　　（２－(3)　友情・信頼，助け合い）

読み物資料「ゆっきとやっち」（文部省　小学校読み物資料とその活用「主として他の人とのかかわりに関すること」）

２　主題について

⑴　内容項目とその系統

【低学年２－(3)】
「友だちと仲よくし，助け合う。」

【中学年２－(3)】
「友だちと互いに理解し，信頼し，助け合う。」

【高学年２－(3)】
「互いに信頼し，学び合って友情を深め，男女仲良く協力し助け合う。」

⑵　指導内容についての基本的な立場

「友達と仲良くし，助け合う」とは，友達と信頼関係を築き，助け合う精神をもつことであり，人間がよりよい社会生活を送るための基盤となるものである。

この期の子どもたちは，困っている友達に対して，立場や思いを理解したり，認めたりすることができるようになり，その場に適した行動をとることができるようになってくる。しかしながら，助けるべき場面に遭遇しても，好悪の感情や自己の損得による自己中心的な考えや，誰かがやってくれるだろうという他者依存の考えなどから助けることができないこともよく見られる。また，面倒くさいといった怠惰な感情や羞恥心などから助けたり手伝ったりすることができないことも見られる。

そこで，本主題では，友達が困っている場面に遭遇したときの主人公の心情やその変化を，自らの経験と照らし合わせながら追求する活動を通して，互いに助け合うことのよさに気付かせるとともに，進んで友達と助け合おうとする態度を育てることをねらいとする。

⑶　本主題の指導内容及び道徳的価値の構造

第１学年及び第２学年

困っている友達を進んで助けようとする態度を育てる。

道徳的実践を支える考え方や感じ方

対自分	◎　気持ちがいい（自己の快い感情）
	◎　喜んでくれてうれしい（自己の成長や達成感，自己有用感）
	○　これからも頑張っていきたい（意欲の向上）
対他者	◎　互いに信じ合える（信頼関係の深まり）
	◎　相手もいい気持ちになる（他者の快い感情）
	○　互いに助け合える（他者の成長）
対社会	◎　みんなが助け合う社会ができる（助け合う生活）
	○　みんなが気持ちよく暮らせる（明るく楽しい社会）
	○　いろいろな人に優しく接することができる（交友関係の広がり）

二面性

心の葛藤

実践を阻む要因

◎好悪の判断
（人によって助ける）
◎損得の判断
（助けても得をしない）
◎他者依存
（誰かがするだろう）
○羞恥心
（恥ずかしい）
○怠惰な感情
（面倒くさい）

心　構　え

◎　優しい気持ちをもつ　　◎　相手の気持ちを考える
◎　強い意志をもつ　　○　勇気をもつ　　○　誠実な気持ちをもつ　　○　思いやりの気持ちをもつ

（◎は重点項目）

(4)　資料について　　【太枠は中心場面】

場　　面	資料の登場人物がもつ「魅力」			
	道徳的実践を支える考え方や感じ方	実践を阻む心の弱さ	心の弱さを乗り越えた心地よさ	道徳的実践に対する思いや願い
①　くらべっこをすることになり，やっちがゆっきに自慢をする。スタートしてしばらくは，やっちが先頭を飛んでいる。		イ「ゆっきがいくらがんばったって，ぼくのほうがはやいさ。」やっちはじまんするようにいいました。　（共感，疑問）「節度，節制，思いやり・親切」		ア　みんなといっしょにすみれのお花ばたけでたのしそうにあそんでいます。（共感，憧憬・感動）「思いやり・親切，友情・信頼，助け合い」
②　おなかが痛くなったやっちは，ゆっきにも追いつかれてしまう。ゆっきは先に行こうか迷う。	ウ「やっち，いっしょにいこうよ。さあ，ぼくの手につかまって。」（共感，憧憬・感動）「思いやり・親切，生命尊重，友情・信頼，助け合い」			
③　ゆっきは，やっちの手を引いて並んでゴールを目指していった。			エ　ゆっきとやっちはならんでとんでいきました。二人のほほにあたるかぜはとてもさわやかでした。（憧憬・感動，共感）「友情・信頼，助け合い，感謝」	

3　子どもの実態

(1)　資料の登場人物がもつ「魅力」に対する子どもたちの意識　（調査人数２５人　H19．9. 13）

子どもたちの意識	資料の登場人物がもつ「魅力」 ア	イ	ウ	エ
疑問（どうしてだろう）	0	１０	2	1
共感（ああよく分かるな）	3	4	4	3
憧憬・感動（すごいな，そうなりたい）	6	4	１２	１３

【ア～エは，２－(4) **資料について**の表中記号と対応】

【考　察】

事前に資料を読ませて，登場人物がもつ「魅力」についてどのように感じているか調べたところ，ゆっきが心の弱さを乗りこえて，苦しそうなやっちに声をかける場面（ウ）と一緒にゴール目指して飛んでいく場面（エ）に対して，子どもたちの約半数が感動していることが分かった。また，やっちに自慢されている場面（イ）では疑問や共感を抱いている子どもも見られた。

しかしながら，ほとんどの子どもたちが，困っている友達を見た経験をもっているものの，共感的な意識がどの場面でもあまり見られなかった。これは，自分の生活経験と資料の場面とを結びつけて考えることが難しいのではないかと考えられる。そこで，「見つめる」過程で，子ども一人一人が主人公の心情に深くかかわるための指導の工夫を行い，登場人物がもつ「魅力」と豊かにかかわることができるような手だてを取り入れていく必要がある。

(2) 本主題に関する子どもの実態　（調査人数２５人　重複あり　H19．9．13）

(ｱ)　本主題に関する経験場面①

友達を助けてあげることができた経験	人数
・　困っている友達に声をかけてあげた	１２
・　手伝ってあげた	8
・　一人でいる子と遊んであげた	4
・　物を貸してあげた	2

(ｲ)　本主題に関する経験の理由①

友達を助けてあげることができた理由	人数
・　かわいそうだから	１４
・　困っているから	１０
・　いいことだから	4
・　気持ちがいいから	3

(ｳ)　本主題に関する経験場面②

友達を助けてあげることができなかった経験	人数
・　物を貸さなかった	１８
・　泣いている子を無視した	4
・　声をかけられなかった	2
・　手伝ってあげなかった	1
・　無回答	1

(ｴ)　本主題に関する経験の理由②

友達を助けてあげることができなかった理由	人数
・　嫌だったから	１２
・　他にしたいことがあったから	6
・　面倒だから	3
・　誰かがしてくれるだろうから	2
・　恥ずかしいから，無回答	各1

(ｵ)　道徳的価値の意義

困っている友達を助けることはなぜ大切か	人数
・　いい気持ちになるから	8
・　自分も助けてもらえるから	6
・　友達だから	5
・　かわいそうだから	4
・　友達が増えるから	3
・　もっと優しくなれるから	2

(ｶ)　道徳的価値に対する心構え

困っている友達を助けるための心構え	人数
・　優しい気持ちをもつ	１０
・　相手の気持ちを考える	8
・　強い意志をもつ	6
・　勇気をもつ	5
・　思いやりの気持ちをもつ	4
・　明るい心をもつ	2

【考　察】

学級のすべての子どもは，困っている友達を助けてあげた経験をもっていることが分かった。助けることができた理由として「かわいそうだから」「困っているから」など相手の立場や気持ちを慮ったものが最も多く，次いで「いいことだから」「気持ちがいいから」といった自己の快い感情を目指したものが多いことが分かった。しかし，一方では，ほとんどの子どもが，好悪の感情や「自分がしたいことがあるから」といった自分本位な考えなどから，困っている友達を助けてあげなかった経験ももっていることが分かった。

困っている友達を助けることの意義については，「いい気持ちになるから」「友達が増えるから」など自己の成長や対人関係にかかわることを多く理由に挙げていたが，「自分も助けてもらえるから」といった自分の利害による理由も見られた。また，助け合うための心構えについては，「優しい気持ちをもつこと」「相手の気持ちを考えること」が大切であると多くの子どもが答えていた。

4　本　時

(1)　目　標

困っている友達を進んで助けようとする心情を高める。

(2)　指導に当たって（研究の視点との関連）

以上のような子どもの実態や主題のねらいを踏まえ，次のようなことに配慮して指導していきたい。

①　子ども一人一人が資料の登場人物がもつ「魅力」と豊かにかかわることができるように，場面ごとの一枚絵を見ながら資料を視聴する。また，役割演技を行うことで，主人公が自慢されたときの心情に深く迫ることができるようにする。

【視点１－ア－(ｳ)　１単位時間の授業設計】

②　役割演技を見る際の視点を明確にし，互いの演技の感想を述べ合う場を設定したり，教師が全体に伝えたい考えが出た際に，演技を中断して全体に知らせたりすることで，友達がもつ「魅力」に豊かにかかわることができるようにする。

【視点１－イ－(ｱ)　役割演技と教師のかかわり方】

③　「気付く」過程と「深める」過程で，日常生活における道徳的価値にかかわる場面の一枚絵を提示し，困っている友達に対してどのようにかかわってきたかという経験を基に自分の考えを話し合う場を設定することで，子ども一人一人が本時の主題にかかわる見方や考え方，感じ方に広がりをもつことができるようにする。

【視点１－ウ－(ｱ)　思考を高める補助教材を用いた「深める」過程の工夫】

(3) 展　開　教師の言葉かけ　予想される子どもの反応　評価項目　◇　研究の視点に関する内容　◆　個に応じた支援

過程	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
気付く (分) (5)	**1　友達が困っている場面の一枚絵を見て，本主題にかかわる経験を話し合う。** あまり助けてないな。 助けたい気持ちはあるんだけれど… 誰とでも仲良くし，助け合うためにはどんな気持ちや考えが大切だろう。	○　友達が困っている場面の一枚絵を見ながら，主題にかかわる経験について話し合い，なかなか実践できない自分に気付くことで，問題意識が高まるようにする ①　主人公の心の迷いの場面を子ども一人一人が十分に共感することができるようにするために，やっちに自慢されている場面を役割演技を行うことで，ゆっきの心情を深く考えることができるようにする。
見つめる (25)	**2　資料「ゆっきとやっち」を視聴し，主人公の心情を中心に話し合う。** (1)　感想を発表し合う。 (2)　やっちに自慢されたときのゆっきの気持ちについて考える。 やっちに自慢されて，ゆっきはどんな気持ちになったかな。 嫌だなあ。 やっちはひどいことを言うなあ。 (3)　苦しそうな顔をしているやっちを見たときのゆっきの気持ちについて考える。 苦しそうなやっちの顔を見て，ゆっきはどんなことを考えたかな。みんなだったらどうするかな。 嫌なことを言われたし，放っておこう。 大丈夫かな。助けてあげたいな。 (4)　手をつないで飛びながら，ゆっきとやっちはどんなことを考えたか話し合う。 手をつないで飛びながら，やっちはどんなことを考えたかな。また，ゆっきはどんなことを考えたかな。 助けてあげてよかったなあ。 何かあったらゆっきを助けてあげたいな。	②　役割交代を行う際には，演技を見る側の視点を明確にしたり，教師が，その演技の理由を尋ねるなどのかかわりをもったりすることで，友達がもつ「魅力」と豊かにかかわることができるようにする。 ②　主人公が迷う場面では，子どもたちが教具を用いて，自分がゆっきだったらどのように迷うのか，また，その理由について話し合うことで，主題にかかわる心の弱さや実践を支える考え方や感じ方の多様性に気付くようにするとともに，友達がもつ「魅力」に豊かにかかわることができるようにする。 ◆　教師と共に飛んでいる場面を動作化したり，表情カードを用いたりすることで，心の弱さを乗り越えたときの心地よさに気付くようにする。
深める (10)	**3　再度一枚絵を見て，困っている友達を助けることの大切さについて考え，話し合う。** もう一度この絵を見てください。さっき見たときと考え方は変わりましたか。また，友達を助けるために大切なことって何かみんなで考えてみようね。 ・　相手の気持ちを考えることが大切なんだな。 ・　優しい気持ちも大切だね。 ・　困っている友達を助けることについて考えたけれど，みんなの考えでいろいろなことに気付いたよ。	③　一枚絵を再度見ながら，新たに気付いた考えや大切な心構えについて話し合う。教師の声かけにより，考え方の広がりに気付くことで，自分がもつ「魅力」の高まりに気付くことができるようにする。
高める (5)	**4　教師の説話を聞く。** 先生も２年生の頃に，友達に助けてもらったことがあったんだよ。 ・　先生にもやっちみたいなことがあったんだね。 ・　友達ともっともっと仲良くなりたいな。	困っている友達を進んで助けようとする心情を高めることができたか。【ワークシート，発表】 ○　説話を聞くことで，困っている友達を進んで助けようとする実践意欲を高めることができるようにする。